

「もっと知ろう、～日本に初めて来たインド人、僧菩提僊那を継承する～」事業

東大寺という歴史の舞台で
日印文化交流のはじまりと未来を考える

2012年に日印国交樹立60周年記念事業として開催された「日本に初めて来たインド人、僧菩提僊那(ボダイセンナ)を継承する」イベントが、2013年も継続して東大寺とインド大使館で行われた。舞踊公演、講演会、写真展など多彩な内容で、長い日印文化交流の歴史にまた新たなページが加わった。

大仏開眼式から1200年以上の時を経て
東大寺で舞踊奉納の催事

菩提僊那というインド人僧について、日印でどれだけの人知っているだろう。菩提僊那は、記録史上インドから日本に渡来した最初の人。奈良時代に仏教の先生として招かれ、仏典とともにサンスクリット語などを日本に伝授し、752年の東大寺盧舎那仏像の開眼式では、聖武上皇に請われて導師を務め、大仏の目に筆を入れるという大役を果たした。その功績から、聖武天皇(発願者)、行基(勧進をした)、良弁(初代別当)とともに東大寺「四聖」として称えられている。

日印交流の原点でもあるこうした史実をもっと広く知ってもらおうと、2012年の日印国交樹立60周年を契機に、NPO法人日印交流を盛り上げる会は「菩提僊那を継承する」事業を立ち上げ、東大寺中門と大仏前で舞踊奉納の歴史的催事を行った。代表の長谷川時夫さん



生きた彫刻とも呼ばれる、インドの優雅なオリッシー舞踊を踊るバビハ・デサイ女史

は、菩提僊那を通して日印交流の歴史を知ることの意義を次のように語る。

「東日本大震災の時に見せた日本人のモラルある行動に世界中から驚きと賞賛の声が上がりました。混乱の中でも冷静で秩序を乱すことなく他人を思いやる。こうした日本人の精神の基盤には、慈悲という、相手の立場に立って物事を考える仏教の影響が少なからずあると思います。インドは仏教を通して、日本の精神や文化に歴史的に深い関係を持っているのです」

菩提僊那継承の事業は2013年も継続され、8月10日に東大寺で舞踊奉納公演が催された。インド式オープンセレモニーの点灯式の後に東大寺中門にて舞踊奉納の予定も、当日はあまりの猛暑のため急遽境内にある金鐘会館ホールに会場を移すことになった。そんなハプニングはあったものの、150人ほどの人がインド政府が派遣したオリッシー舞踊の公演を楽しんだ。オリッシーはインド南東部のオリッサ州に伝わる古典舞踊で、流れるような



同法人が主催する日本最大級のインド・フェスティバル「ナマステ・インドア」(9月28、29日に代々木公園で開催)で展示された菩薩僊那像



イベントを告知するチラシ

動きと優雅なポーズから生きた彫刻とも呼ばれている。かつて菩提僊那が導師を務めた大仏開眼式には万人を超える日本僧が招待され、その際にもシルクロードの舞楽が催されたとの記録が残されている。歴史の一端が再現されたかのようだ。

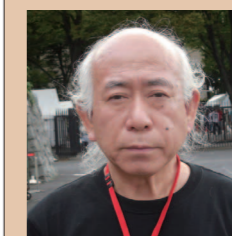
8月13日にはインド大使館において、インド哲学・仏教学者の前田専学(東方学院院长)、平岡昇修(東大寺執事長)両氏による講演会とオリッシー舞踊公演が行われ、菩提僊那と日印交流の貴重な話を聞けるまたとない機会となった。また同時期に、写真家の松本榮一氏による写真展「仏陀の道」も同ギャラリーにて開催された。

事業の最終目標は
菩提僊那の史実が教科書に載ること

こうした一連のイベントは、日印交流のために長年独自の活動を続けてきた長谷川さんがインド大使館に強く働きかけて実現した。企画をはじめ、インド政府の舞踊団派遣元のICCR(インド文化交流評議会)との折衝から舞踊団の日本滞在の世話まで、長谷川さんが一手に引き受けている。インド大使館の文化担当官から「ミスター長谷川がいなければインド大使館は何もできない」と言われるほど、信任は厚い。

「公演の1ヶ月前になってようやく派遣舞踊団が確定

担当者より



今後10年間継続して
開催していきたい

NPO法人日印交流を盛り上げる会
理事長
長谷川時夫さん

菩提僊那についてはあまり知られていないため、事業を支援してくれるところのないなかで、AJOSCのご理解には大変感謝しています。市場主義では文化は育たないと思っています。来年は両国の文部大臣にも参加していただけるよう奔走してまいりますので、会員の皆様もぜひ足を運んで文化の本質に触れてください。

するなんていうことは当たりまえ。それでもできるだけのことをして迎えてあげたい。彼らからは文化の本質という栄養をもらっていますから」と長谷川さん。

「近年、政治経済の面で関係を深めている日本とインド。将来に向けて揺るぎない両国関係を築いていくうえで、今こそ文化交流の基盤が必要。そのためにも、菩提僊那から始まる日印文化交流の歴史への認識を深めることが求められている。歴史を知らないと、今もこの先も見えてこない」と説く。

長谷川さんは、「菩提僊那を紹介して終わりではなく、今後はさらに映画やアニメなどに発展するような活動を続けていきたい。それがインドとの新たな文化交流になると思います。将来的に両国の教科書に載るように頑張りたい」と意欲を燃やす。



インド大使館で講演を行う
前田専学東方学院院长